

共創分野

プログラムオフィサー（PO）としての募集・選考・採択・推進に対する基本的方針



プログラムオフィサー

くせ かずし
久世 和資（旭化成株式会社 執行役員エグゼクティブフェロー）

「共創の場形成支援プログラム」における共創分野（科学技術分野全般）では、大学等を中核機関とした「大学等や地域の独自性・強み」に基づく産学共創拠点の形成を目指す提案を、「育成型」と「本格型」のそれぞれで募集します。提案に際しては、公募要領に記載されている内容を踏まえていただく必要がありますが、ここでは、PO としての考え方をお知らせします。提案を検討されている皆様のご理解の一助としていただければ幸いです。

日本では、数多くの優れた技術の研究や開発が進められています。ただ、それらが、産業や社会の大きな変革につながっているものは、残念ながら限られています。これは、日本が本当の意味で多様性（ダイバーシティ）を積極的に取り入れ、あらゆる視点から、未来のビジョンを作り、それを実現するために、関連するあらゆる人や組織と、柔軟かつダイナミックに連携し、協業することが得意でないことが、原因のひとつです。本プログラムでは、この日本の抜本的な問題を打破し、本来あるべき共創の場を形成することを目指します。

（1）本プログラムの趣旨に合致したものであるか

できるだけ大きな社会の課題に取り組むことが、産業や事業の活性化や発展につながると確信しています。未来に向けて解決すべき社会的課題は何か、それを実現する拠点ビジョンをどのように設定するか、そのビジョンの実現に向けて共創と研究開発をどのように推進するかなど具体的かつ明確に記載してください。なお共創分野では、特に分野指定は設けずに幅広い分野からの提案を受け入れます。また、「本格型」と「育成型」の2つの実施タイプで提案を募集しますので、準備状況や現状体制等に応じてタイプを選んで提案してください。

（2）大学等や地域の独自性・強みは何か

拠点が持つユニークな特性を最大限に活用することが、強力な共創パートナーを巻き込み、より大きなインパクトにつながります。「大学等や地域の独自性・強み」を明確化し、それを

ベースに、国際的な水準の持続的な産学共創拠点を形成する必要があります。そのためには、まずは、それぞれの独自性・強みを十分に理解し、ビジョン実現のためのギャップを特定し、それを補完するために異なる要素や組織と組み合わせることにより、大きな価値を創出することができます。それらのポイントについて、具体的かつ明確な記載を期待しています。

(3) どのように魅力的な拠点形成が図れるのか

私は、長年の企業の研究開発のリードに加え、全社の技術戦略の策定や推進を実践してきました。企業の立場からすると、すべての参画組織やメンバーが、このプロジェクトに本気で参画する動機や環境づくりが不可欠だと考えます。プログラムの実施においては、「組織」の壁を越えて全メンバーと全組織の共創により、単独では達成できないスケールの価値を生み出すことが重要です。それに加えて、その価値や成果を、各参画メンバーや組織に還元し、それぞれ成長や発展につながることも不可欠です。プロジェクトの推進を通して、「ダイバーシティの実践」や「共創をリードできる人材の育成」なども期待しています。共創のエコシステムをどのように構築するのか、特に「本格型」の提案においては、具体的かつ明確に記載してください。

COVID-19 後は、デジタルを最大限に活用し、物理的に集まって作業しなくても、効果を発揮できるワークスタイルやライフスタイルが、ニューノーマルになります。日本は、ある意味、対面での活動でチームワークを発揮することが、社会の発展の源泉になっています。本プログラムでも、物理的な参集がなくても、高品質な共創を実現できる仕組みを考慮する必要があります。つまり、今までよりもバーチャルな形での連携が必須で、拠点形成においても、物理的な制約に捕らわれない柔軟な体制の構築を目指してください。

「育成型」からの移行を含めると最長 12 年にわたる比較的長期のプログラムとなります。拠点ビジョンやアプローチは硬直化させることなく、時代の変化に応じて、効果的に更新しながら、チームとして課題解決に取り組む魅力的な産学共創拠点の形成を期待しています。

以上が PO としての考え方です。公募要領と合わせて提案の参考にしてください。共創分野では幅広い分野からの提案を受け入れますので、今後の選考・採択・推進については、多岐にわたる分野からダイバーシティも考慮し、専門家や有識者の方にアドバイザーとして加わっていただき適切に進めます。新しい社会の変革をめざした多くの魅力ある提案を、心より楽しみにしています。

くせ かずし
久世 和資 (旭化成株式会社 執行役員エグゼクティブフェロー)

【経歴】

- 1982年 筑波大学情報学類卒業
- 1987年 筑波大学大学院工学研究科修了 (工学博士)
- 1987年 日本アイ・ビー・エム株式会社入社
- 2004年 同社東京基礎研究所長
- 2005年 同社執行役員
- 2008年 同社未来価値創造事業部長
- 2009年 同社研究開発担当
- 2017年 同社執行役員最高技術責任者
- 2020年～ 旭化成株式会社執行役員エグゼクティブフェロー

【専門】

コンピュータ・サイエンス